

30歳前後の県外在住者をターゲットに県が展開するUIJターン就職促進施策のPRに活用されている。静岡文化芸術大3年生。受託研究として授業で制作に取り組み、自身は8点を考案。他の学生の作品と合わせた中から選ばれた。京都府出身。21歳。

—ロゴマークになった作品はどんなデザインか。

「静岡県の形を魚に見立て、富士山を融合させた。生まれた川に戻る魚のように、静岡に帰って一人前になるという思いを込めた。親しみを感じてもらえるよう、あえて丸みを持たせる

「30歳になったら静岡県！」のロゴマークを制作した

あさの 浅野 あおば 青葉 さん (中区)

この人



など試行錯誤を重ねた

—県の担当者からはどのような評価を受けたのか。

「発想がとても面白いと言っていた。シンボルマークとしての見やすさも評価していた。自分の狙いが伝わったのかなと思い、うれしかった」

—自身の作品が広く発信

されていることへの感想は。

「本当に大きな経験で、将来へ向けた自信にもなっている。電車や企業で掲示してもらったり、動画などさまざまな媒体で使ったりしてもらえれば。(出身地の)京都でこのロゴが見られることも期待している」

—県外から移り住んでみて感じる静岡県の良さは。

「やっぱり気候が穏やかで、とても住みやすいところ。人柄も温かい。個人的には三島市や掛川市の落ち着いた雰囲気が好き」

◇ 休日もイラストなどを描いて過ごすことが多い。